

平成 24 年 12 月 4 日 00095 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【事務局情報】月刊武道に記事が掲載されました！※月刊武道 12 月号発行 日本武道館



平成24年11月28日(水)財団法人日本武道館より発行された「月刊 武道 12月号」に、北見市武道振興協議会佐藤事務局長(NPO 理事長)の随筆「実現を目指して」が掲載されました。日本武道館より随筆の依頼があり、それに投稿しました。佐藤理事長は「北見市武道振興協議会事務局長の立場で、北見市に武道館ができることを全国に知らせたいと思い、8団体が武道館建設に向けて行ってきた 20 年間の活動や、実現できた喜びなどを書きました。」と、思いを語ってくれました。「月刊 武道 12月号」は、書店で買い求めることができます。(山本)



【第 17 回北見市総合武道祭レポート】⑥剣道

初めに日本剣道形制定の経過、その意義や立会の呼吸。そして剣道の技術の基本となるもので、修練することにより剣の理法を学ぶことができる等々、その重要性につ



いての説明がありました。その後、打太刀・剣道教士七段細川 洋先生と仕太刀・錬士七段長野哲男先生による太刀の形七本と小太刀三本の演武が行われました。気迫に満ちた迫真に迫る演武を披露されました。(杉本)



連載【週刊氷川丸】⑬ 氷川丸 海の教室ユースホステル

1960(昭和 35)年旅客が飛行機に代わる時代になり、30 才となって老朽化した氷川丸は、シアトル航路での 7 年間にわたる 46 回の航海で、貴重な輸出入物資に加え、約 15,800 人の航客を無事に輸送した後、内外の多くの人々に惜しまれながら引退しました。氷川丸は引退までの 30 年間に約 9 万人もの人々を運びました。引退後の氷川丸は、海事・海洋思想普及の為の海の教室と宿泊施設を兼ねた観光船にしたい要望が集まり、1960(昭和 35)年 12 月、神奈川県観光協会、横浜市観光協会、日本郵船が中心となり氷川丸観光(株)を設立、係留の為の改装工事と棧橋の建設が計画されました。船内には 600 人単位の宿泊が可能な諸施設を整備し、翌年 5 月 19 日に改装を終え、6 月 2 日横浜開港記念日に海の教室ユースホステルとして開業しました。1967(昭和 42)年 9 月には、氷川丸観光(株)と横浜展望塔(株)が合併した、氷川丸マリンタワー(株)の所有となります。その後、観光船として水族館やレストラン、ビヤガーデンなどの事業を展開、修学旅行生を主とした宿泊業務は 1973(昭和 48)年まで続きました。開業 2 年目には年間観覧者総数 104 万人を超え、宿泊総数は 6 万 3,000 人に達しました。しかし、「横浜みなとみらい地区」の開発が進むにつれて次第に観光客は氷川丸から遠のいていきました。つづく 次週はリニューアルされた「日本郵船氷川丸」をお伝えします

横浜港に曳航される氷川丸

